

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 5年次生 三石 凜太郎

1. はじめに

この度、本学の国際交流基金の助成を受けて 3月 15 日から 3月 21 日の間渡米し、ワシントンで開催された American College of Cardiology にて学会発表をさせて頂きました。

薬学生の就職先には、病院や薬局以外にも多くの選択肢があります。グローバル化が進んでいる今日、どの道に進んだとしても、少なからず英語力が必要になると思います。学会自体は3日間という短期間ですが、一生懸命取り組んで少しでも英語力を向上させたい。また、学会を通して様々な刺激を受け、経験を積みたいと思い、国際学会に参加することに決めました。

2. American College of Cardiology 学会にて

ACC 学会が世界でも1位2位を争う大きな学会であった事、私が初めて参加した国際学会であった事等から、初日から圧倒されていました。まず、口頭発表もポスター発表も、パーテーションで簡単に区切られているだけで、とてもオープンでした。傍聴席も、適当に椅子が並べられているだけで、聴衆もリラックスして発表を楽しんでいました。ACC で発表する半年前にも国内の学会で発表しましたが、その時に感じた堅苦しいイメージとは、雰囲気もスタイルも違い、自由度の高いプレゼンテーションという印象が強かったです。

ACC 学会では、本番前の予行演習を行える専用ブースが設置されており、機器の使い方を練習したり、ACC スタッフから、発表について助言を頂いたりする事が出来ました。全力で発表に臨めるようにと、親身に練習に付き合ってくれた事、私の発表について良かった点を素直に伝えてくれた事が、本番前の励みになりました。

本番ではやはり緊張しましたが、それをやる気に変える事を意識しながら発表を行いました。この僅か10分の発表の為に何カ月も汗水を垂らした事も勿論ですが、渡米直前まで私を支えてくれた先生方や同志、初対面の日本人にも親切にしてくれたスタッフの苦勞を無駄にたくありませんでした。結果、発表は無事に終わり、聴衆も満足そうでした。

写真 1：会場にて



写真 2：学会初日

写真 3：発表



3. おわりに

今回、国際交流基金助成事業の助成金により国際学会での発表という貴重な体験をすることができました。英語力には自信がある方でしたが、専門用語の飛び交う学会では、予想以上にコミュニケーションをとるのが難しかったです。また、プロフェッショナルの発表を拝見しながら、改めて自らの知識不足を実感しました。一方で、自身の発表では練習・本番共に、スタッフや聴衆からお褒めの言葉を頂き、「これからも恐れずに挑戦を続けてほしい」と言って頂きました。その時の喜びはとても大きかったです。研究内容に考察を付けて纏め、発表までもっていくのは、それなりの苦労がありました。この一言を頂いた事で、これまで頑張った甲斐があったと思えました。この貴重な体験から学んだことを将来に活かしていき、次に国際交流の場があれば積極的に参加していきたいです。